

【主な質疑応答】2026年12月期 第2四半期 決算発表説明会

日時：2026年8月6日（木）18：00 開始

登壇者：

代表取締役社長 木村 稯介

取締役専務執行役員 経営企画本部長 兼 事業推進本部長 沖中 直人

執行役員 SBF ジャパン Deputy CEO 兼 戦略企画本部長 川村 崇

【全社】

Q. 上期の原材料コスト悪化額の内訳、中東情勢影響との関係、下期の見通しについて教えてほしい。

A. 年初想定 of 原材料コスト悪化は日本 214 億円、海外 120 億円。上期実績は日本 102 億円、海外 77 億円で、中東情勢影響 60 億円（日本約 40%）を含む。日本は原材料市況の変化や企業努力により当初想定 of 範囲内に収まった。下期の中東情勢影響は 80～120 億円を想定しており、引き続きコスト吸収に努める。

Q. 為替を除くと上期の利益は計画比でどうだったのか。また、下期も中東影響を吸収できるのか。

A. 為替中立ベースでも、中東情勢の悪化を含めて当初想定どおりの利益に着地した。ただし、下期の中東情勢は不透明であり、できる限り吸収するが、海外を含めてすべてを吸収できるかは分からない。

Q. 為替や中東情勢の影響を踏まえ、通期計画をどのように見ているか。

A. 為替や中東情勢を含めた事業環境の中で、年初計画の達成を目指す考えに変わりはない。原材料市況には不透明要素が残るものの、創意工夫を継続しながら計画達成を目指す。

Q. 米国を重視する M&A 方針の背景は何か。

A. オーガニック成長に加え、非オーガニック成長も追求する方針に変わりはない。米国は世界最大の飲料市場であり、成長余地が大きいことから重要市場の一つと位置付けている。

【日本】

Q. 値上げ環境の中にあっても引き続き数量成長を重視する方針か。

A. より多くのお客様に商品・サービスをお届けすることが重要であると考えているため、数量成長を重視する考え方に変わりはない。そのうえで、販売施策や価格施策を適切に組み合わせながら利益成長も追求していきたい。

Q. 第2四半期に利益が大きく改善した要因は何か。

A. 販売数量増加や活動効果に加え、マーケティング投資の内容や実施時期を精査したことが寄与した。必要な投資は継続しており、販売数量へのネガティブな影響はなかった。

Q. 中東情勢の影響が見込まれる中、通期計画達成に向けた施策は。

A. ①販売数量の拡大、②前年実施した価格改定効果の最大化、③数量増を活かした製造・在庫コストの効率化の3点を柱として取り組む。

【海外】

Q. 欧州、特にフランスの課題と今後の成長戦略を教えてください。

A. フランスでは消費環境の弱さに加え、砂糖税増税対応による価格上昇が販売に影響した。レシピ変更や価格適正化により改善が進んでおり、6月以降は回復傾向にある。また、フランスで実施していた他社製品の受託製造を終了したことも売上減少要因となったが、利益影響は限定的。

Q. 海外で進める変革の手応えと利益成長の見通しについて教えてください。

A. 手ごたえは感じている。市場や顧客起点で事業運営を見直す取り組みを進めており、成果が現れ始めている地域もある。スペインや健康食品も含め課題を特定し対応中。先行してマーケティング投資を実施しているため利益への反映には時間差があるが、今後の成長につなげていく。

Q. 海外事業の減益が続く中、利益成長の見通しをどう考えているか。

A. 中東情勢による追加コスト影響を踏まえながらも、年初計画の達成を目指す方針に変更はない。第3・第4四半期の両方を通じてマーケティング投資や各種コストを適切にコントロールしながら事業を推進。

Q. 米州事業の利益減少要因と今後の対応について教えてほしい。

A. 主因はアルミに対する関税影響である。価格改定や容器容量戦略などを通じてコスト上昇への対応を進めていく。

以上